

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 69	福山市立戸手小学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月14日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが引き込まれる授業は、先生が教材に引き込まれている。先生が「楽しい」「美しい」と表現することが大切。 情報活用能力は校区で育成する4つ力と全て関連する。「情報をどう受け止めさせるのか」、「情報と自分たちとの関わりを考えさせること」が大切。 先生方に見えている子どもの姿は一面であり、家庭や地域では別の姿を持っていることを大切にしてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。 新市スタンダードの生活4項目に継続して取り組み、高数値を維持している。 課題のあった運動種目について、子供たちに目標を設定させ、体育の授業や家庭でも取り組ませた結果、課題が克服できてきた。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題解決力、チャレンジ&チェンジする力、つながる力、自己表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を設定し、情報を比較・分類・関連付けながら解決する児童生徒。 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 互いの良さや違いを認め合い、協働して課題の解決策を導き出す児童生徒。 自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる自己表現力を育てていく。 新市スタンダード学習5項目(準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習)、生活4項目(挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除)の徹底を進める。
---	---	--	--

III 自校

ミッション	夢や志を持って、自らの力でたくましく生きる児童を育てる
学校教育目標	自ら考え、心豊かで生き生きと活動する児童を育てる
現状	<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査及び学力の伸びを把握する調査において、学力では思考力・判断力・表現力に係って昨年度からの伸びが見られるものの、依然として市平均及び全国平均よりも低い傾向にある。特に、自分の考えを持つことや考えをアウトプットすることが苦手な児童が多い。学習への意識に係っては、主体的・対話的で深い学びを実感している児童の割合も市平均及び全国平均よりも低い傾向にある。 不登校児童は4名で全体の0.01%であった。遅刻が多い児童もいる。 体力テストの結果において、県平均を上回った項目は67%であった。校舎改築のため運動する場や機会に制限があるため運動量を増やす体育の授業改善をする必要がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員が実践目標を立て「みる・みる・みせる」取組をし、授業改善を図ってきたが、全ての児童が授業の中で自分の考えをアウトプットする場を設ける必要がある。 福山100NEN教育アンケートにおいて、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている。」教員100%、「児童に対してじっくり話を聞き、考える手助けができています。」教員100%、「児童生徒の変化に応じ、柔軟な授業を実践している。」教員100%である。 年間計画を基に、SDGs・地域とのつながりを持った活動を展開した。今後も、地域とつながり、地域と共に学ぶ探究学習の推進とキャリア教育の充実を図る。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	チャレンジ&チェンジする力	つながる力	自己表現力	
めざす子ども像	1・2年	課題を見つけ、互いの考えを伝え合っており、課題を解決している。	自分のやりたいことに挑戦している。	友達の良いところを見つけている。	自分の思いを相手に伝えている。
	3・4年	課題を見つけ、自分の考えと友達の考えを比較・検討し、課題を解決している。	困難なことにも挑戦し、最後までやりきろうとしている。	友達の良さを見つけると共に、協力して行動しようとしている。	自分の思いや考えをまとめて伝えている。
	5・6年	課題を見つけ、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、課題を解決している。	自分の目標を立て、達成に向けて見通しを持って、改善しながら取り組んでいる。	互いの良さや違いを認め合い、協働して課題解決している。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて伝えている。
研究	テーマ	全ての児童が安心して自分の考えを表現できる授業づくり —フレームリーディングで自ら考えを形成できる児童の育成—			
	内容等	主体的に学び、「思考力・判断力・表現力」を高める授業の創造 —自分の考えを表現できる児童の育成—			
めざす授業の姿	「反応」を大切に、全ての児童が安心して自分の考えを表現できる授業				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立戸手小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	〇評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	〇評価	達成 評価	総合 評価
3	子どもが学ぶに 向かう力、学び 続ける力を育成 する。	★	継 続	課 題 解 決 力 を 育 成 する。	様々な運動に親しむ場 を設定したり、各領域を 全校で系統立てた指導 が行えるよう、授業改善 を行ったりする。	「運動が好き」な児童を 85%以上にする。体育 的行事や、体力づくり イベントの取組により、 進んで体力の向上を 図ったと答える児童を 85%以上にする。								
			継 続	チャレンジ&チ ェンジする力を 育成する。	協働的に教材研究を 行い、互いの授業を 「みる・みる・みせ る」取組等で、授業改 善に努める。	学期に1回、計画的 に授業を「みる・み る・みせる」チャレ ンジウィークを 設定し、授業を改善 する。								
			継 続	つ な がる 力 を 育 成 する。	児童の様子を交流し、 全ての児童の居場所 づくりに取り組む。	「学校が楽しい」と いう児童を90% 以上にする。								
			継 続	教職員のやりが い・充実感を高め る。	業務改善を図ると 共に、教職員同士が 支え合ったり、児童に 向き合ったりする 時間をつくる。	「仕事にやりがい (意欲)を感じている」 という教職員を90%以 上にする。								
3	地域や地元企業 と連携したキャ リア教育を推進 する。	★	継 続	自己表現力を 育成する。	地域や地元企業と 育成したい資質・能力 や企業理念を共有し、 探究活動・出前授業等 を推進する。	児童及び地域や企業 等の評価において、 「自分の思いや考え をまとめ、多様な表現 方法を用いて表現で きる」という児童を 85%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。